

平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290400043		
法人名	社会福祉法人報徳会		
事業所名	黒石ケアサポートセンター（認知症対応型共同生活介護）		
所在地	〒036-0537 青森県黒石市赤坂字池田136番地		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相手を尊い人と思い、常に尊敬する気持ちを持ち接する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	連宮推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	採用後には必ず当法人の理念を伝え、定期的に朝礼の場で確認し、事務室内へ掲示している。各会議でケアの方向性の修正を図り、実践へ繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭、敬老会、クリスマス会や小学校運動会への参加・見学、慰問、ボランティア喫茶を通し地域との交流を図っている。また、ホームページを通じ、事業所の情報や活動等をお知らせしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護に携わるような方を対象に勉強会を実施している。また勉強する場所として施設の開放をしている。又、人材を育てる貢献として実習生の受け入れを幅広く行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者に状況、活動報告、サービス内容についての報告を行い、助言を頂いている。助言を反映させた実践例として、有給休暇を習得しやすい体制を作ることができた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議や地域密着型事業者連絡会の開催し、市の方にも参加頂き、情報交換できる関係を築いている。その他困難事例についてはその都度電話連絡にて報告したり、アドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会による内部研修を行っており、知識を身に付けている。利用者一人一人の希望、要望に対しても行動の抑制をしないケアに日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の申し送り等で、言葉かけや適切な対応がであるか等、情報を共有し、確認し合っている。また、リスクマネジメント委員会でも内部研修を実施し、高齢虐待防止法に関する理解や法令遵守の意味を再確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、利用者の中に成年後見制度を利用した方がおり、学ぶ機会があった。権利擁護の視点から日々利用者の出来る部分を活かし生活へ反映できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に自宅訪問で出向いたり、施設見学の為来所頂きながら、納得を得られるよう十分な説明を行っている。又、定期的に利用者、ご家族と話す時間を設け、不安や要望を理解しサービスへ反映している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やアンケートの実施、苦情処理については全職員間で検証できるよう、書類の回覧や、リスクマネジメント委員に報告、または施設内へ掲示し運営に反映している。ホームページにもお客様の意見を開示し、改善内容も報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課で面談を行う機会を設けている。その他事業部会議に参加し、直接職員の意見を聞き、話し合い実践に結び付ける様促している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議等の時間外賃金、有給休暇の取得の励行、リフレッシュ休暇や、育児介護休暇等の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や部門での勉強会、委員会、職域等による研修会を実施している。人材育成委員会にて内部研修の計画を立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会(市内のグループホーム事業所・小規模多機能型事業所で構成)に参加し、事業所と交流する機会を定期的に設けている。また他施設と合同での研修や、互いの施設行事への参加を行い交流を図り、切磋琢磨していける関係性を構築している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に自宅や病院を訪問したり、施設を見学して頂き、利用者の状態を把握し施設の詳細を説明している。面談時ご本人の話を傾聴し思いを受け止めることで安心して頂けるよう配慮している。又、不安がないよう、回数を多く関わりをもつようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時、ご家族が安心して話せるような雰囲気作りをし、十分に話を傾聴し、これまでの経緯や体験を理解しながら、思いや困っている事を受け止める事で安心して頂けるよう努めている。又、いつでも電話相談を受け付けていることを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時のご本人やご家族の思い、現在の状況をもとに、いま必要な事を見極め、事業所としてできる支援の提案をし、対応している。また、当事業所で対応できない場合には関係機関と連携を図り、適切なサービスが受けられるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業部の重点目標に、相手を尊い人と思い、常に尊敬する気持ちを持ち接する。と掲げ、利用者は人生の先輩であることを念頭に、職員と共同しながら暮らせるような場面作りや声掛けをしている。生活の中で得意分野で力を発揮して頂いたり生活の知恵を教えて頂く場を設け、感謝を伝えている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状態報告をしたり、必要な時は電話する等して情報交換している。年4回発行の事業所便りでの近況報告にて遠方にご家族も安心できるようにしている。又、ケアプランの説明にてどのように支援していくか同意を得て、互いにご本人を支えて行くという関係を維持している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの場所等と付き合いを続けられるように昔から利用している美容院や病院に継続していったり、檀家の寺の行事に同行する等し、社会と交流できるよう配慮している。友人、知人等の面会をいつでも受け入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や会話能力を考慮し、居心地の良い空間と時間を過ごせるように食事席や居室の配置を行っている。生活の様々な場面でも個性を活かして良い関係性を築ける様働きかけたり、役割、活動を通して協力したり助け合う等、共に生活する仲間として関わりあえるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用・契約が終了した後も、要望や相談があればいつでも支援できる旨伝え、対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や態度、表情から、利用者の希望や意向を傾聴したり、引き出している。ひもときシートを活用し、幅広いアセスメントをケアプランに反映している。生活の中で、本人ができることを積み重ね、望む暮らしを継続できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の調査時に家族から聞き取りを行い、生活歴等の情報収集に努めている。また、他施設や医療機関からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で利用者の身体面・精神面の状態を把握し、変化がある場合には申し送りや会議で話し合い、原因を探りケアの見直しを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族住み慣れた地域住民との情報を交換し、現状に対するニーズ・支援方法を話し合い介護計画に反映されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々で様子を観察し、変化等ある際は申し送りでケアの変更をし、ケース・日誌へ記入、情報共有している。月一回のモニタリングを実施し、状態把握に努め、今後のケアやカンファレンスに繋げている。また今の、強化観察者がすぐわかるようホワイトボードの利用を工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じ、送迎や、病院の付き添い、外出や食事等、臨機応変に対応し、サービス提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパー、馴染みの美容院への外出支援や地域の小学校運動会見学、参加等を行い、地域の方々と交流し楽しく安心した生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が安心して治療をして頂けるよう、かかりつけの病院を受診している。本人の初診や、受診が必要な場合は、家族同行依頼や家族へ相談し、本人、家族に確認し医療機関との連携している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で変化や、気づきがあった際、都度看護へ報告、相談し必要に応じ受診し適切なケアへ繋げるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面談や状態確認を行い、病院、家族と情報交換をしている。地域医療連携室と連携し、入退院される利用者の、今後の方向性について確実に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアは行っていないが、終末期ケアとしては、本人・家族・医療機関と相談、連携しながら、日々のケアを決めたり、緊急時の対応を確認して合っている。また、看取りについて、看護職域が内部研修を実施し、作成した指針の確認も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを整備している。事故発生した際、報告書に記入し、原因、改善策を全職員で検討し次へ繋げている。リスクマネジメント委員会の提言を全職員で確認し見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(日中・夜間)避難訓練を地域の消防団と協力して行っている。各部門では通報装置の作動方法の把握をし、朝礼でも消火器の使用について再確認し、緊急時に備えている。防災委員会を設置しマニュアルや訓練時、メール配信ができるよう整備も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の重点目標である「相手を尊い人と思い、常に尊敬する気持ちを持ち接する」を意識しケアへ繋げている。又、プライバシーに配慮した声掛けも行っており、個人情報についても、セキュリティを強化して秘密保持の徹底に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を伝えやすい雰囲気作りや言葉かけを行っている。活動の選択や本人の嗜好に合わせた食事の選択、外出の選択等、利用者自ら決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者一人一人の状態、状況に応じ本人の気持ちを尊重し、自分のペースで過ごして頂けるよう柔軟な支援をしている。食事の時間や就寝時間、入浴日も本人の希望が反映されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、パーマ、髪染めの希望があれば馴染みの美容院へ外出支援したり、地域の床屋が来所し散髪している。服装も、本人と会話しながら季節に合った服装と一緒に選んでいる。又、定期的に訪問エステによるマッサージ、アロマエステを楽しむ等気分転換へ繋げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付け等、職員が一緒になって行っている。食事前にサンプルを設置し、目で見て食欲増進や楽しみに繋がり、食事に対する興味や関心が持てるような配慮をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事の際、摂取状態を観察し、栄養士と連携を行い、一人一人に応じた食事を提供している。又、食事や水分量についてチェック表や申し送りにて情報を共有し、摂取量の確保につながるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促しており、本人の能力に応じた援助を行い感染予防や清潔保持に努めている。又、定期的に義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用してパターンの把握に努めている。又、表情や動作からの訴えも見逃さないよう、個々の状況、状態に合った声の掛け方をしている。トイレ誘導時も、自力でできる部分はやって頂けない部分を支援し、自尊心を傷つけることなく排泄ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時、乳製品(ヤクルト、牛乳、ヨーグルト)を提供しており、ご飯にも麦や乳カル(ファイバー)を入れている。日々で、体操、散歩、掃除などを通し体を動かした後は水分補給に努めている。利用者が自由に水分を飲めるようにホールにはウォータージャグを設置している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	大浴と個別浴があり、希望や状態を考慮し臨機応変に対応している。大浴では利用者同士が交流をふかめたり、職員とゆっくり会話できる場にもなっている。個別浴も同様に1対1の関わりの中家庭的な雰囲気で行えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や活動、散歩、外気浴等行い、夜間の安眠につなげられるよう努めている。夜間、不安なことがあり目を覚まされた利用者の方へ、安心して眠れるような声掛けや会話もするよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はいつでも閲覧できるように、ファイル一覧で整備している。また、薬の追加・変更、量の増減があった場合は、強化観察者として、状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みのある歌や、畑での水やりや草取り、書道、裁縫を自分で選択して参加し、生活に張りを持って頂けるよう支援している。利用者によつては、月1でケーキを食べる日を作ったり、他部門活動に参加することで楽しみに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に本人の希望によって、外へ散歩に出かけたり、畑の草取りを行っている。また、ドライブや買い物も希望に応じて対応している。家族による外出支援も定期的に行われている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は、施設側で行っているが買い物の希望があれば必要時にいつでも使用できる環境である。又、支払いができる方には支払いを行って頂いている。電話の為の小銭は自己管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の中には、プランの中に電話をかける日を設けており、家族と電話で会話する事を楽しみにしている。又、いつでも電話できるように公衆電話を設置している。年末は年賀状を送り、疎遠にならないよう関係作りに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境美化係を新たに設け、共有空間(玄関、廊下、居間、食堂等)に生活感や季節感が感じられるような空間作りをしている。全居室にエアコンを設置し、気温・湿度に応じて調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や置き場所を多方面に分けることで、心地よい小スペースを設定している。また、テーブル席のメンバーも状態に合わせて変更している。併設している小規模多機能へも自由に入出できることで、本人の希望する小スペースをみつけやすい環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中に遺影を置いたり、仏具を置いたりその方の思いを組み込んだレイアウトを設定している。状態に応じてベッドの高さや配置も変更しながら、気持ち良く休んでいただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態に合わせ、自力歩行可能な利用者にはホーム居室間の長い設定を作ったり、トイレ前に目印をつける等環境整備している。また安全面の気づきに対しては速やかに報告される仕組みを作っている。		